

わたしの旅 - その1 心構え

一杉 秀樹

旅は移動であり、見聞を広めるものでもある。少し昔、成功した商人^{あきんど}が跡取り息子に次のようなことを教えた。「乗り物は窓側に席を取り、常に車窓の景色、風物に目をこらす。停車場^{ていしゃば}ではどのような人が乗り降りし、どのような物を携えているかを観察する。そうすれば必ず商いに役立つ」

この商人ほどではないにしろ、私も移動しつつ見聞を広める努力を怠らず、窓側に陣取り、常に見えるものに注意を払うようにしている。光を背にしたほうが眺めが良いので、時刻、進行方向を勘案して右側か左側かを決める。新幹線の窓ガラスは壁からかなり奥まっているのでほぼ無用であるが、在来線であれば車両^{はこ}の出来るだけ後ろに座ることで視界が広がる。飛行機でも窓側席は絶対である。時刻や天候により全く眺めが無いこともあるが、時には日本列島の鳥瞰が楽しめる。

どのあたりを旅するかアイデアが何かの拍子に浮かんだら、次は地図を眺める。最近の地図帳はドライバーを意識したものなので、道路には詳しいが鉄道やバスの路線図を見るには余り適さない。従ってJTBの時刻表やGoogle Mapも併用する。なるべく広い範囲を何度も眺めているうちにどこからどこまでを旅したい、何故その経路なのか、何が期待できるのか、がだんだん輪郭をなしてくる。このあたりになると歴史的な背景についてもGoogleなどで情報を集めるようになってくる。

一応始発点と終着点、それに経由地点を決めるわけで、宿泊も想定するが、それらの地点がとりわけ有名な観光地である必要はない。大体において観光地と称するものはやたらと人が多く、またいかにも観光客を目当てにした店などが多く、好むところではない。そこがどんな地域であるか、できればその歴史を含めて理解すること、それが私にとっての旅である。もちろん移動することでそれぞれの地域の特性やら変化やらも目につくことになり、それが見聞を広めることとなってくる。